



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 日本外科宝函 1939, 16(1)

ISSUE DATE:

1939-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/205072>

RIGHT:

ARCHIV
FÜR
JAPANISCHE CHIRURGIE
XVI BAND, 1939

日本外科寶函

第 16 卷

~~昭和~~14 年

INOKO-ITO-VEREIN,
KAISERLICHE CHIRURGISCHE UNIVERSITAETSKLINIK,
KYOTO, JAPAN.

京都帝國大學醫學部外科學教室內

日本外科寶函編輯室

(猪子・伊藤兩教授記念會)

日本外科實函 第16卷 (昭和14年)

總 目 次

原 著

輸血後脾臓内_Lヘモジデリン¹沈着……………森 岡 玉 龜…(1)

胃分岐 (Magengabelung) = 依ル胃内食物分布ノ實驗的研究…西 村 鍵 治…(7)

輸尿管通過障礙=際シテノ腎盂並ビ=輸尿管ノ筋肉變化=就

テ……………岸 五 八 郎

第Ⅱ報 輸尿管ヲ急性=完全閉塞シタル場合ノ腎盂ノ筋肉變化=就テ……………(16)

第Ⅲ報 輸尿管ヲ急性=完全閉塞シタル場合ノ閉塞上部ノ輸尿管ノ筋肉變化

=就テ……………(32)

胃及ビ腸ノ縫合部=於ケル死腔ノ大サ並ビ=其ノ菌感染ガ治

癒=及ボス影響=就テ……………渡 邊 政 太 郎

第1篇 胃=於ケル場合……………(46)

輸尿管通過障礙=際シテノ腎盂並ビ=輸尿管ノ筋肉變化=就テ

第Ⅳ報 輸尿管ヲ不完全閉塞セシメタル場合ノ腎盂並ビ=輸尿管ノ筋肉變化

=就テ……………岸 五 八 郎…(175)

胃及ビ腸ノ縫合部=於ケル死腔ノ大サ並ビ=其ノ菌感染ガ治

癒=及ボス影響=就テ……………渡 邊 政 太 郎

第2篇 腸ノ側々吻合部=於ケル場合……………(198)

輸尿管通過障礙=際シテノ腎盂並ビ=輸尿管ノ筋肉變化=就テ

第Ⅴ報 輸尿管通過障礙下部ノ輸尿管ノ筋肉變化……………岸 五 八 郎…(307)

胃及ビ腸ノ縫合部=於ケル死腔ノ大サ並ビ=其ノ菌感染ガ治

癒=及ボス影響=就テ……………渡 邊 政 太 郎

第3篇 腸斷端部ノ巾着縫合部=於ケル場合……………(327)

腫瘍ノ_Lイムペチン¹……………石 野 琢 二 郎…(355)

肝臓自家融解=ヨル死ノ原因=就テ……………天 野 謙 吉…(372)

腎臓ノ莢膜=關スル實驗的研究及ビ其ノ實際的意義……………岸 五 八 郎

第Ⅰ報 健常ナル腎臓=行ヘル場合……………(473)

胃及ビ腸ノ縫合部=於ケル死腔ノ大サ並ビ=其ノ菌感染ガ治

癒=及ボス影響=就テ

第4篇 胃腸吻合部ニ於ケル場合	渡邊政太郎	(491)
白色膽汁ノ生成ニ就テ	天野謙吉	(507)
經皮全身免疫ノ成立機轉ニ關スル研究	橋本長利	
第1報 黃色葡萄狀球菌 ₁ コクチゲン ₁ 軟膏貼附後局所皮膚ヲ切除スル程度ト 流血中ニ產生セラルル ₁ オプソニン ₁ 量トノ相互關係		(563)
第2報 黃色葡萄狀球菌 ₁ コクチゲン ₁ 軟膏前處置局所皮膚ヘノ ₁ コカイン ₁ 軟 膏貼附程度ト流血中ニ產生セラルル ₁ オプソニン ₁ 量トノ相互關係		(580)
第3報 大腸菌 ₁ コクチゲン ₁ 軟膏貼附後局所皮膚ヲ切除スル程度ト流血中ニ 產生セラルル凝集素量トノ相互關係		(587)
第4報 大腸菌 ₁ コクチゲン ₁ 軟膏貼附局所皮膚 ₁ コカイン ₁ 作用ノ程度ト流血 中凝集素產生トノ相互關係		(596)
第5報 大腸菌 ₁ ワクチン ₁ 軟膏貼附局所皮膚ヲ切除スル程度ト流血中ニ產生 セラルル凝集素量トノ相互關係		(603)
第6報 大腸菌煮沸 ₁ ワクチン ₁ 軟膏貼附後同局所皮膚ヲ切除スル程度ト流血 中ニ產生セラルル凝集素量トノ相互關係		(610)
腎臟ノ莢膜ニ關スル實驗的研究	岸五八郎	
第Ⅱ報 墨汁注入ノ直後ニ輸尿管ノ通過障礙ヲ起サシメタル場合ニ就テ		(691)
頸部交感神經節ガ家兎ノ耳殼ニ施セル移植皮膚ニ及ボス影響	渡邊政太郎	(702)
經皮免疫法ノ基礎的實驗	植田謙吉	
第1報 免疫元軟膏塗擦時間ニ就テ		(730)
第2報 免疫元ノ直接塗布ト軟膏貼附トノ比較並ニ經皮免疫ニ於ケル ₁ ワク チン ₁ ト ₁ コクチゲン ₁ トノ優劣		(736)
第3報 經皮免疫元ノ本態ニ就テ		(742)
第4報 經皮免疫ニ向ツテノ菌體ノ意義		(746)
第5報 免疫元軟膏貼附ニヨル全身免疫(血中產生特殊 ₁ オプソニン ₁)ノ獲得 ニ局所皮膚免疫程度トノ並行性		(755)
第6報 ₁ ワクチン ₁ 塗布法ニ依リテ經皮全身免疫ガ獲得セラルルヤニ經皮全 身免疫ト注射全身免疫トノ差異		(762)
第7報 經皮全身免疫發生機轉ニ經皮免疫ト注射免疫トノ免疫學的差別		(767)
軟膏免疫法ノ基礎的實驗	革島史郎	
第1報 大腸菌 ₁ コクチゲン ₁ ノ軟膏免疫ト注射免疫トニ依ル血中產生 ₁ オプ ソニン ₁ ノ比較		(781)
第2報 大腸菌 ₁ コクチゲン ₁ ヲ以テ血中最大 ₁ オプソニン ₁ 產生ヲ獲得スベキ 好適軟膏量及ビ注射量ノ決定		(786)

- 第3報 大腸菌 γ -コクチゲン γ ヲ以テセル注射免疫ト軟膏免疫トニ於ケル血中
產生特殊凝集素及 γ -オプソニン γ ノ比較……………(795)
- 第4報 大腸菌 γ -コクチゲン γ ヲ以テセル軟膏免疫或ハ注射免疫ノ眞ノ效果ニ
就テ 附 免疫操作ヲ異ニスル場合ノ免疫獲得程度ノ判定方法……………(803)
- 第5報 軟膏免疫法ニ於ケル抗體ノ生産母地ニ就テ……………(828)
- 第6報 軟膏免疫ニ於ケル局所皮膚細胞ノ生理機能ニ就テ……………(833)
- 免疫ト神経作用トノ關係ニ就テノ研究……………佐 伯 善 雄
- 第1報 局所皮膚免疫ノ獲得ニハ神經ガ關係ヲ有スルヤ……………(921)
- 第2報 偏側脊髓神經切斷(D₉-L₃)配下皮膚ノ免疫獲得程度ニ就テ……………(957)
- 第3報 麻痺榮養障礙ニ陥レル皮膚ニ依ル經皮全身免疫ニ就テ……………(961)
- 第4報 交感神經ヲ遮斷シタル皮膚ヲ經テノ經皮全身免疫ニ就テ……………(969)
- 第5報 脊髓神經(D₉-L₃)ノ偏側切斷ニヨリ廣汎ナル麻痺榮養障礙ニ陥レル
皮膚ハ免疫元ノ靜脈内注射ニ依ル全身免疫ノ獲得ニ影響ヲ及ボスヤ……………(974)
- 第6報 交感神經切除術ノ局所皮内 γ -オプソニン γ ニ產生ニ及ボス效果並ビニ
 γ -オプソニン γ ヲ指標トスル腰薦交感神經節狀索切除術ト動脈外圍切除術ト
ノ優劣ニ就テ……………(978)
- 第7報 免疫元軟膏ト沃度加里軟膏トノ對比—經皮(經粘膜)免疫ノ意義……………(986)
- 結核感染ニ抗スル肺ノ直接免疫ノ研究……………西 尾 英 美
- 第1報 結核菌 γ -コクチゲン γ ヲ以テセル抗黃色葡萄狀球菌非特異性 γ -オプソ
ニン γ ノ肺ニ於ケル產生……………(1005)
- 第2報 抗結核菌特殊性 γ -オプソニン γ ノ肺ニ於ケル直接產生……………(1018)
- 第3報 最大ノ特殊性 γ -オプソニン γ ノ肺臟内產生ニ必要ナル結核菌 γ -コクチ
ゲン γ 量ノ決定……………(1020)
- 第4報 肺實質内抗結核菌 γ -オプソニン γ ノ最大產生ヲ指標トセル各種結核菌
成劑ノ效力ノ比較……………(1022)
- 第5報 肺實質内抗結核菌 γ -オプソニン γ ノ產生ヲ指標トセル BCG ト結核菌
 γ -コクチゲン γ トノ效力ノ比較……………(1026)
- 第6報 人型結核菌ノ肺實質内感染並ニ感染ノ全身性移行ニ抗スル免疫ノ獲
得ニ關シ BCG 生免疫元ト結核菌 γ -コクチゲン γ トノ效力ノ比較……………(1028)
- 中川, 高杉氏癌腫血清診斷法ニ就テ……………信 岡 德
- 第1報 主トシテ外科領域ニ於ケル臨床的觀察……………(1039)
- 第2報 内分泌機能異常ガ癌腫血清反應ニ及ボス影響……………(1045)
- 食道切開縫合方法ニ關スル實驗的研究……………山 根 齊……………(1058)
- 葡萄糖加免疫元ニヨル經皮全身免疫ノ研究……………弘 重 充

第1報	「 γ -コクチゲン」中ニ葡萄糖ノ混入アルモノト然ラザルモノトノ間ニ差アリヤ	(1074)
第2報	葡萄糖ノ含量ト血清中ノ「 γ -オプソニン」產生量トノ關係	(1085)
第3報	5.0%葡萄糖加腸「 γ -チフス」菌「 γ -コクチゲン」ヲ軟膏トシテ皮膚ニ貼用シタル場合ト靜脈内ヘ注射シタル場合トニ於ケル血中產生凝集素量ノ比較	(1090)
第4報	葡萄糖加「 γ -コクチゲン」軟膏皮膚貼用ニヨリテ流血中ニ產生セラレタル「 γ -オプソニン」ノ種族特異性ノ吟味	(1097)
軟膏免疫局所皮膚ノ全身性作用		
第1報	軟膏免疫前處置局所皮膚ヨリ既往反應ニ際シテ血中ヘ供給セラル、抗體特殊「 γ -オプソニン」量ノ測定	(1105)
第2報	軟膏免疫後(4個月經過)同名既往反應ニ對スル局所皮膚「 γ -コカイン」處理ノ影響	(1124)
第3報	「 γ -コカイン」軟膏免疫的前處置局所皮膚ヨリスル抗體分泌ノ立證	(1133)
第4報	免疫元軟膏ヲ以テ前處置セラレタル局所皮膚ノ同名及異名既往反應ニ就テ免疫局所皮膚ヨリ血中ヘ動員セラルベキ抗體ノ性質	(1139)
胸腔免疫ノ研究		
第1報	胸腔内免疫ニ於ケル好適免疫元量ニ就テ	(1150)
第2報	胸腔内免疫ニ於ケル好適經過時間ニ就テ	(1160)
第3報	同一黃色葡萄狀球菌ヨリセル各種免疫元ノ效力ノ比較ニ就テ	(1164)
第4報	胸腔免疫ニ於ケル體壁胸膜ト肺臟胸膜トノ差異ニ就テ	(1173)
第5報	免疫元ノ肺臟内注射ニヨリテ體壁肋膜ハ免疫ヲ獲得スルカ	(1176)
第6報	體壁肋膜ノ獲得セル「 γ -オプソニン」ノ菌種族特殊性ニ就テ 附 免疫元ノ特殊性、非特殊性ノ問題	(1180)
腎臟ノ莢膜ニ關スル實驗的研究		
第Ⅲ報	輸尿管ノ通過障礙ヲ起サシメタル後墨汁注入ヲ行ヘル場合ニ就テ	(1190)

臨	床
---	---

Mycosis fungoides	ヲ併發シタル Kahler 氏病ノ1例及ビ其ノ腫瘍細胞ノ本態ニ就テ	金 將 星	(79)
脊椎「 γ -カリエス」ノ觀血的療法		土 星 準 一	(108)
外科的疾患並ニ手術的侵襲時ニ於ケル「 γ -ビタミンC」ノ消耗ニ就テ		村 上 治 朗	(129)

〔ビタミン⁷C 消耗測定法並ニ血清中〔ビタミン⁷C 定量法

- ニ就テ(中山氏報告ノ批判)……………村 上 治 朗…(159)
- 外傷ニヨル乳糜胸ニ就テ…………… $\left\{ \begin{array}{l} \text{藤 田 一 雄} \\ \text{板 東 保} \\ \text{杉 下 次 郎} \end{array} \right.$ …(229)
- 脊髓髓内血管内被細胞腫ノ手術治驗例……………金 將 星…(238)
- 幼・小兒ニ於ケル腦腫瘍ノ治療ニ就テ…………… $\left\{ \begin{array}{l} \text{パーシバル・ベイレイ} \\ \text{パウル・ビウシイ} \\ \text{田 中 憲 二} \end{array} \right.$ …(378)
- 消化管象皮症…………… $\left\{ \begin{array}{l} \text{藤 浪 修 一} \\ \text{房 岡 隆 三} \end{array} \right.$ …(414)
- 尖端ガ腸間膜ト纖維性ニ癒着セル爾他健常蟲様突起ニ因ル絞
扼性〔イレウス〕…………… $\left\{ \begin{array}{l} \text{都 谷 枝 萬 次 郎} \\ \text{大 西 正 三 郎} \end{array} \right.$ …(431)
- 脾臓皮下單獨破裂ノ2症例…………… $\left\{ \begin{array}{l} \text{都 谷 枝 萬 次 郎} \\ \text{大 西 正 三 郎} \end{array} \right.$ …(435)
- 睾丸肉腫ノ轉移ニヨル小腸重積症ノ1例……………苧 坂 直 彦…(617)
- 原發性胃肉腫ノ1例……………苧 坂 直 彦…(840)
- 胃切除胃腸吻合術後ニ來ル胃部不快症狀(胃部膨滿感)ノ原因
ニ就テ 附 各種胃腸吻合術ノ檢討……………石 野 琢 二 郎…(849)
- 正常胃粘膜皺襞像ニ就テ
其ノ1. 胃粘膜皺襞ノ検査方法ト同皺襞ノ意義……………石 野 琢 二 郎…(1201)

臨 床 瑣 談

- 第Ⅳ腦室腫瘍ノ2例……………荒 木 千 里…(152)
- Kausalgie ニ就テ……………荒 木 千 里…(154)
- 下顎綠色腫ノ1例……………森 欣 一…(155)
- ト線像影劑ニ依ル寒性膿瘍原發竈ノ追及……………村 上 治 朗…(157)
- 流注膿瘍ヲ思ハシメタル筋炎ノ1例……………辰 巳 幹…(158)
- Pneumatosis cystoides intestinalis ニ於ケル1知見……………森 欣 一…(159)
- 膽囊炎2例……………森 欣 一…(161)
- 後腹膜畸形腫ノ1例……………森 欣 一…(162)
- ト線造影劑ノ尿道破裂診斷ニ於ケル應用……………朝 倉 進…(163)
- 鎖肛ノ1治驗例……………副 島 謙…(164)
- 髌臼蓋成形術ノ2例……………上 原 孫 作…(164)
- 高度ナル脊髓性麻痺ヲ主徴トシタルカーレル氏病症例追加……………金 將 星…(257)
- 頸部囊腫剔出後ニ現レタル嚥下不能症……………相 川 文 夫…(258)

頸部肉腫ノ硬膜外轉移症例……………	新 美 睦 世…	(259)
開放創ヲ有スル胸膈結核ノ治療方針ニ就テ……………	三 好 爲 一…	(260)
嫌氣性菌ニ依ル腐敗性膿胸ノ2例……………	村 上 治 朗…	(261)
胃癌ニ於ケル Schnitzler 氏轉移ニ就テ……………	房 岡 隆 三…	(263)
小兒ニ於ケル發作的吐血ノ1例……………	石 野 琢 二 郎…	(265)
小腸破裂ノ1治驗例……………	倉 彦 市…	(266)
急性脾臓症ノ4例ニ於ケル知見……………	房 岡 隆 三…	(267)
脾臓壞死2例……………	苧 坂 直 彦…	(269)
尿中大腸菌ノ存在ニヨリ診斷サレタル蟲様突起炎ノ1例……………	相 川 文 夫…	(272)
生後2ヶ月ノ乳兒ニ於テ「イレウス」ヲ伴ヘル蟲様突起炎ノ1 例……………	三 好 爲 一…	(272)
強度ノ直腸脱ノ手術治驗例……………	苧 坂 直 彦…	(273)
第四性病ヲ思ハシメタル淋菌性横痃……………	村 上 治 朗…	(275)
肺動脈撮影法ノ經驗……………	石 野 琢 二 郎…	(447)
手術時「メニギオーム」ト誤認サレタル矢狀竇外膿瘍……………	荒 木 千 里…	(448)
小腦々橋角部腫瘍ト鑑別スベキ一側性多發性腦神經炎……………	荒 木 千 里…	(449)
腰薦部交感神經節狀索切除後特發性脱疽ノ「ルーリツシュ」氏手 術ニ依ル治驗例追加……………	野 村 一 郎…	(452)
脊髓腫瘍摘出例……………	吉 岡 忠 夫…	(453)
「コレステリン」性肋膜炎ノ1例……………	村 上 治 朗…	(454)
氣管枝瘻ヲ伴ヘル陳舊性膿胸遺殘死腔ノ全治例供覽……………	森 欣 一…	(455)
膽石症手術後ノ潛侵熱ニ就テ……………	村 上 治 朗…	(455)
胃潰瘍穿孔性腹膜炎ノ1治驗例……………	倉 彦 市…	(456)
腸管囊氣腫ノ1異型……………	副 島 謙…	(458)
糞石ニ依ル小腸閉塞症ノ1例：腹水ノ發生機轉ノ一考察……………	江 坂 廣 文…	(459)
脱腸嵌頓時尿中大腸菌出現ノ診斷の意義ニ就テ……………	江 坂 廣 文…	(459)
多發性癌力癌轉移力……………	副 島 謙…	(461)
先天性多發關節屈位強直 (Arthrogryposis multiplex congenita) ノ1例……………	三 好 爲 一…	(462)
リットル氏病ニ對スル「フエルステル」氏手術ノ1例……………	三 好 爲 一…	(463)
彈撥膝ノ1治驗例……………	吉 岡 忠 夫…	(464)
外科ニ於ケル「ビタミン」ノ應用症例……………	村 上 治 朗…	(628)

膽血症性出血性素因ニ際シテ手術前處置トシテ「ビタミン」

- C 超大量注射ノ偉效ニ就テ……………村 上 治 朗…(631)
- 中樞神經損傷ニヨル體半側性體溫異常……………荒 木 千 里…(632)
- 肋間神經痛ヲ主訴トスル肋膜内皮細胞腫……………吉 岡 忠 夫…(634)
- 胃石ヲ伴ヘル胃潰瘍ノ1例……………松 木 軍 太…(635)
- 結腸癌ト合併セル良性胃腫瘍……………朝 倉 進…(636)
- 蛔蟲迷入ニ依ル蟲様突起ノ結石症狀……………{長 岡 浩 三 登 敏 郎…(638)
- 急性蟲様突起炎ガ後腹膜腔ニ穿孔セル場合ノ治療方針ニ就テ {長 岡 浩 三 登 敏 郎…(639)
- 巨大ナル大陰唇象皮病……………金 澤 紀 四 五 郎…(640)
- 特發性脱疽ノ腰部交感神經節切除術後ニ現ハレタル急性壊死
ニ就テ……………三 好 爲 一…(641)
- 一種ノ血管運動營養神經性疾患ノ1治驗例……………金 澤 紀 四 五 郎…(642)
- 兩側聽力障礙、失調症其他ヨリ成ル症候群ニ就テ……………荒 木 千 里…(877)
- Chondrodystrophia foetalis ノ患者供覽……………吉 岡 忠 夫…(880)
- 急性脊髓硬膜外膿瘍ノ2例……………苧 坂 直 彦…(881)
- 瀑狀胃ノ手術例……………森 欣 一…(882)
- 胃癌ヲ思ハセタル内發性胃滑平筋腫……………市 川 博 信…(884)
- 慢性便秘症例……………金 澤 紀 四 五 郎…(885)
- 重篤ナル顔面蜂窩織炎ニ於ケル治驗例……………稻 岡 勝…(886)

臨床検査ノ指針

- 特發性脱疽患肢細胞生活機能検査ノ一考察……………山 田 憲 吾…(625)

臨床レ線學

- 外科の疾患ノレ線診斷トソノ手術所見(1)……………藤 浪 修 ……(870)

臨床診斷ト手術所見

- 腸間膜囊腫ト誤ラレタル結核性腹膜炎ノ1例……………森 欣 一…(166)
- 慢性腸狭窄症狀ヲ呈セルS字狀結腸軸捻轉症……………苧 坂 直 彦…(167)
- ペルテス氏病ニ對スルラブアル氏手術例……………黑 澤 俊 祐…(168)
- 穿孔性胃潰瘍ト脾臓壞死トノ鑑別診斷……………上 原 孫 市…(170)

胃癌末期＝現ハレタル限局性漿液性腦膜炎……………	荒	木	千	里	…(276)
嵌頓「ヘルニヤ」ト誤ラレタル汎發性腹膜炎……………	新	美	陸	世	…(278)
腸間膜動脈性十二指腸閉鎖ノ1例……………	吉	岡	忠	夫	…(465)
急性動脈腸間膜性十二指腸閉塞追加……………	荒	木	千	里	…(467)
腸管壁筋腫2例……………	藤	岡	十	郎	…(468)
後腹膜腫瘍ノ1例……………	森	欣	一		…(470)
蜘蛛膜囊腫ヲ伴ヘル聴神経「ノイリノーム」……………	荒	木	千	里	…(643)
悪性＝變化セル頸部深在性皮膚様囊腫……………	奥	山	義	治	…(644)
腸間膜淋巴腺ノ炎症腫脹＝ヨル一過性十二指腸閉塞……………	相	川	文	夫	…(646)
習慣性腸重積ノ1例……………	朝	倉	進		…(647)

講 演

骨改造帶 (Umbauzone) ノ病理成因ト其本態……………	名	倉	重	雄	…(279)
腦腫瘍手術時ニ於ケル腦壓急變ノ危險ニ就テ……………	荒	木	千	里	…(284)

學 會

第47回近畿外科學會抄録(各種消毒藥ノ喰菌作用ニ及ボス影響其他47編)……………	(287)
第48回近畿外科學會抄録(代償性機能ヲ營メル肺ノ抗體產生ニ就テ其他47編)……………	(887)

雜 纂

京都外科集談會12月例会……………	(172)
京都外科集談會1月例会……………	(172)
京都外科集談會2月例会……………	(304)
京都外科集談會3月例会……………	(304)
京都外科集談會4月例会……………	(471)
京都外科集談會5月例会……………	(471)
テオドル・ビルロートの書簡集から(1—22)……………	(661)
萩原教授就任式記事……………	(681)
デオドル・ビルロートの書簡集から(23—61)……………	(901)
テオドル・ビルロートの書簡集から(62—96)……………	(1227)
近藤教授就任式記事……………	(1245)

京都外科集談會 6 月例會	(1251)
京都外科集談會 9 月例會	(1251)
京都外科集談會 10 月例會	(1251)

外 國 文 獻

一 般

脳震盪 = 於ケル血糖及ビ血液像 = ツイテ	Schmit-Riediger (649)
手術後ノ進行性皮膚壞疽	H. Waschulewski (649)
尾閥痛 = 對スル坐骨神經ト梨子狀筋トノ關係	L. E. Beaton & B. J. Auson (649)
整形外科學の畸形 = 於ケル白働の電氣療法 = 關スル器械裝置	O. Stracker (650)
稀有ナル腫瘍	Kusche (650)

胸 部

男性乳房肥大 = 就テ	K. Kammiker (651)
肩胛筋並 = 胸筋ヲ以テスル胸廓成形術後ノ死腔閉鎖	B. Bacz (651)
巨大ナル縦隔膜膿瘍ノ自然治癒 1 例	T. Vitols und R. Kelterborus (651)
拔去法 = 依ル食道中央部ノ癌剝出 = 就テ	Fr. Bernhard (651)

腹 部

化膿性汎發性腹膜炎ノ療法	F. Schröder (652)
炎衝性廻盲部腫瘤 = 對スル考察	D. Sarafoff (652)
腸閉塞症ノ原因トナレル總腸間膜間隙	H. Türk (652)
潰瘍ノ第2疾患トシテノ脾臓障碍	H. E. Stocker (653)
急性脾臓疾患ノ保存的療法	H. Griessmann (653)
再發性脾臓炎	Ludwig Arnsperger (654)
睾丸脱臼	H. W. Ott (654)

直腸, 肛門

ホワイトヘツド氏術式 = 依ル肛門括約筋外性完全直腸瘻ノ治療 = 就テ	W. Hasslinger (654)
---	---------------------

四 肢

遊走性血栓靜脈炎 = 就テ	B. Volger (655)
原因不明ノ坐骨神經痛	G. E. Haggart (655)
薦腸關節 = 原因スル坐骨神經痛ノ診斷及療法	K. O. Haldman (655)
「アラクノダクテイリア」	J. R. Norcross (656)

- 幼兒ニ於ケル拇指ノ屈曲攣縮ニ就イテ..... E. Ruschenberg (656)
- 先天性曲指症..... G. Maurer (656)
- 跖趾外翻症ノ手術ニ就テ..... M. A. Levine (657)
- 跖趾硬直症ニ就テ..... K. Holtje (657)
- Pirogoff 氏斷端ノ運搬並ニ負荷性ニ就テ..... H. Greve (657)

骨、關節

- 畸形治癒ヲナセル踝骨折治療ニ於ケル踝部ノ手術的修復ノ經驗.....
..... M. Hackenbroch (658)
- 孤在性骨囊腫及ビ巨態細胞腫ノ病理及ビ臨床ニ就イテ..... Géza Szántó (658)
- 特ニ交感性萎縮ヲ顧慮セル關節捻挫ノ檢索..... F. Schüle (659)
- 多發性先天性關節強直..... L. Horeyseck (659)
- 所謂先天性股關節脫臼ノ自然治癒10例ニ就イテ..... S. Nagura (660)
- 先天性股關節脫臼ノ觀血的根治手術後ニ於ケル同關節ノ改造ニ就イテ.....
..... K. Deutschländer (660)
- 足關節結核ニ對スル骨片移植ニヨル關節外固定術..... J. Meurer (660)

人名索引

普通……雜誌, イタリツク……臨床, ()……學會, 太字……原著, ————講演

A

相川文夫 258, 272, (300), 646
秋山卓三 (893)
天野謙吉 372, 507
安藤研士 (898)
青柳安誠 (302)
荒木千里 152, 154, 276, 284, 448,
449, 467, 632, 643, 876
荒瀬進 (288) (897)
朝倉進 163, (299), 636, 647

B

坂東保 229
Princinal Baileg 378
Panl Bncg 378
ト庵老生 661, 901, 1227

D

土居文右衛門 (291) (303)

E

江坂廣文 459

F

富士原晴雄 (894)
藤本馨 (891)
藤浪修一 414, 870
藤岡十郎 (287) (302), 468, (897)
藤田章 (301) (898)
藤田一雄 229, (294) (295) (300) (302) (894)
藤田小五郎 (287) (289) (295) (889) (890) (898)
房岡隆三 263, 267, 414

H

濱光治 (898) (899)
原徹 (302)
原守藏 (289) (294) (296) (895)
橋本長利 563, 580, 587, 596,
603, 610, 617, 625
林義之 (288) (289)
畠中清男 (898)

平林陸男 (887)

弘重充 1074, 1085, 1090, 1095,
1105, 1124, 1133, 1139

姫井淑 1150, 1160, 1164, 1173, 1176, 1180

I

井福早苗 (294) (889) (897)
石井親一 (290) (889) (897)
石野琢二郎 265, (296), 355, 447, 840, (894) 1201
稻岡勝 886
岩永仁雄 (298)
市川博信 884, (887)

K

金澤紀四五郎 640, 642, 885
笠井重雄 (291) (292) (900)
柏誠治 1245
加藤恒夫 (291)
河村謙二 (291) (302)
革島史郎 781, 786, 795, 803, 828, 833
金將星 79, 238, 257, (290) (891)
岸五八郎 16, 32, 175, 307, 473, 691, 1190
岸友兄 (894)
近藤銳矢 (292)
倉彦市 266, 456
熊野政明 (295)
黒澤俊祐 168
黒田啓次 (889)

M

松木軍太 635
松村正重 (896)
松永剛毅 (299)
松岡道治 (303) (894)
松田勇次郎 (295)
三羽兼義 (295) (890)
美馬陽 (895) (897)
三登敏郎 638, 639
光永三郎 (900)
三好爲一 260, 272, 462, 463, 461

宮 川 幹 雄 (900)
 水 野 祥 太 郎 (292) (899)
 森 欣 一 155, 159, 161, 162, 166,
 (290), (300), 470, 882
 森 岡 玉 龜 1
 村 上 治 郎 129, 157, 261, 275, (288),
 454, 455, 628, 631
 村 上 俊 (898)
 武 藤 完 雄 \ (291) (898)

N

長 岡 浩 638, 639, (895)
 中 原 精 三 (894)
 中 堀 準 夫 (288)
 名 倉 重 雄 279
 中 川 太 郎 (289) (292) (298) (891) (893)
 中 村 彌 一 郎 (889)
 中 田 勝 (896)
 中 郷 安 正 (891)
 新 美 睦 世 259, 278, (301)
 新 谷 太 郎 (888)
 西 村 鍵 治 7
 西 野 信 夫 (292)
 西 尾 英 美 1005, 1018, 1020, 1022, 1026, 1028
 野 村 一 郎 452
 信 岡 德 1039, 1045
 野 崎 道 郎 (900)

O

都 谷 枝 萬 次 郎 431, 435
 奥 山 義 治 644
 大 西 正 三 郎 431, 435
 大 澤 達 (293)
 苧 坂 直 彦 167, 269, 273, (299), 617, 840, 881
 鬼 束 惇 哉 (300)
 小 澤 凱 大 (292) (294) (295) (296)
 尾 崎 陽 (898)

R

劉 慶 蘭 (287) (888)

S

佐 伯 善 雄 921, 957, 961, 969, 974, 978, 786
 櫻 井 雅 四 郎 (295)
 佐 々 木 秀 貫 (289)
 佐 藤 隆 平 (299) (900)

清 英 夫 (290) (298)
 鹿 嶋 健 太 郎 (899)
 千 頭 英 男 (895)
 副 島 謙 164, 302, 458, 461
 岡 田 秀 穂 (893)
 末 廣 茂 逸 (302) (896)
 菅 野 準 (296)
 菅 野 亮 二 (897)
 杉 岡 善 一 (293)
 杉 下 次 郎 229, (294)

T

武 田 義 章 (295) (296) (888)
 竹 岡 友 之 (287) (288)
 竹 林 弘 (291) (293) (891) (893)
 田 村 春 雄 (900)
 田 中 榮 三 郎 (896)
 田 中 憲 二 378
 辰 己 幹 158
 虎 島 敏 治 (303)
 土 屋 準 一 108

V

植 田 謙 吉 730, 736, 742, 746, 755, 762, 767
 上 原 孫 作 164, 170
 内 田 金 次 郎 (289)

W

渡 邊 一 九 (298)
 渡 邊 政 太 郎 46, 198, 327, 491, 702
 渡 邊 三 喜 男 1245

Y

山 田 詳 吉 (887)
 山 田 憲 吾 625
 山 根 齊 1058
 山 口 春 海 (900)
 横 田 浩 吉 296
 吉 田 太 郎 (300)
 吉 川 直 三 郎 (298) (893)
 吉 川 勳 (897)
 吉 村 一 雄 (291)
 吉 岡 忠 雄 453, 464, 465, 634, 880

Z

神 納 光 治 郎 (888)

物 件 索 引

原著ハ太字，臨床ハ——，臨床瑣談及ビ臨床診斷ト手術所見ハ「イタリック」，學會，講演，雜誌ハ普通活字

- A**
- 壓迫性脊髄，剖検例…………… 291
- 「アテローム」摘出法…………… 289
- B**
- 瀑狀胃…………… 882
- 便秘症(慢性)…………… 885
- Böhler 氏法，脊椎骨折ヘノ…………… 290
- 膀胱纖維筋腫…………… 303
- 葡萄糖加免疫元ト經皮全身免疫…………… 1074, 1085, 1090, 1097
- C**
- 陳舊性膿胸遺殘死腔…………… 455
- 蜘蛛膜囊腫…………… 643
- 腸
- 縫合部死腔…………… 46, 198, 327, 491
- 閉塞症，植物性纖維腫ニヨル…………… 299
- 重積，習慣性…………… 647
- 腸管
- 壁筋腫…………… 468
- 囊氣腫…………… 458
- 様氣腫…………… 300
- 瘻(高位)，ボツタ氏處置…………… 300
- 運動，ト腹膜外刺戟…………… 894
- 腸間膜
- 動脈性十二指腸閉鎖…………… 465, 467
- 淋巴腺ノ炎症性腫脹…………… 646
- 腸骨櫛骨片分離病…………… 900
- 腸石ノ診斷…………… 300
- Chondrodystrophia foetalis…………… 880
- 聽力障礙，兩側…………… 876
- 聽神經
- 「ノイリノーム」…………… 643
- 腫瘍…………… 291
- 直腸脱…………… 273
- 中樞神經損傷ト體溫異常…………… 632
- 蟲様突起炎
- ト尿中大腸菌…………… 272
- ，「イレウス」ヲ伴ヘル…………… 272
- 手術後ノ急性肺虛脱…………… 295
- 穿孔…………… 639
- D**
- 大腸菌
- ，尿中ノ，脱腸箆頓ト…………… 459
- ト蟲様突起炎…………… 272
- 「コクチゲン」ノ軟膏免疫…………… 781, 786, 795, 803
- 大陰唇象皮病…………… 640
- 第四性病…………… 898
- 脱腸箆頓ト尿中大腸菌…………… 459
- 脱臼，肩峰鎖骨關節ノ…………… 900
- 彈撥膝…………… 292, 464
- Davis 氏尿反應，惡性腫瘤ノ…………… 889
- 動眼神經麻痺(一側性)ノ手術…………… 891
- E**
- 「エンヒヨンドローム」ト膝彈撥現象…………… 900
- 嚥下不能症，頸部囊腫剔出後ノ——…………… 258
- 嫌氣性菌ト膿胸…………… 261
- 炎衝性腸疾患…………… 302
- 壊死，脾臓ノ…………… 170, 269
- F**
- フエルステル氏手術，リットル氏病ノ…………… 463
- 腹部腫瘍，レ線検査…………… 296
- 腹壁筋炎，氣管枝痙攣性——…………… 296
- 腹腔膿瘍，蟲様突起炎後ノ…………… 896
- 腹膜炎
- 急性——…………… 302
- 汎發性——…………… 278, 301
- 胃潰瘍穿孔性——…………… 456
- 結核性——…………… 166
- 腹膜外
- 刺戟ト腸管運動…………… 894
- 移動性盲腸固定術…………… 895
- 腹水發生機轉…………… 459
- 糞石ト小腸閉塞症…………… 459
- G**
- 外傷
- ，神戸大水害時ノ…………… 900
- ト乳癰胸…………… 229
- 外科の疾患

——, 腹部疾患ト尿中大腸菌	302
——, レ線診断	870
——トLビタミン ⁷ Cノ消耗	129

癌

結腸——	636
多發性——, 轉移	461

癌腫

——, 血清反應ト内分泌機能異常	1045
——血清診断(中川, 高杉氏)	1039, 1045
ガツセル氏神經節, Lアルコール ⁷ 注射	289
凝集素量	
——ト大腸菌Lコクチゲン ⁷ 軟膏	587, 596, 603
——ト大腸菌煮沸Lワクチン ⁷ 軟膏	610

H

萩原敬授就任式	281
肺動脈撮影法	447
肺直接免疫, 結核感染ニ對スル	
	1005, 1018, 1020, 1022, 1026, 1028
肺虚脱(急性), 蟲様突起炎手術後ノ	295
排膿法, 肝膿瘍ノ	302
白色膽汁生成	507
汎發性腹膜炎ト嵌頓Lヘルニア ⁷	301
Lヘモジデリン ⁷ , 脾臓内沈着	1
Lヘパリン ⁷ トLイレウス ⁷ 毒素	894
Lヘルニア ⁷ , 嵌頓——	278
皮膚様囊腫, 頸部深在性——	644
脾白蓋成形術	164
Lヒスタミナーゼ ⁷ 等電點	893
脾臓 /	
——破裂, 打撲ニヨル	898
——囊腫	302
蜂窩織炎	
顔面——	886
胃壁——	298
祛邪腫ノ摘出	891
發作性吐血	265

I

胃	
瀑狀——	882
——分岐ト胃内食物分布	7
——縫合部死腔ト感染	46, 198, 327, 491
——壁蜂窩織炎	298
——滑平筋腫	456

——粘膜皺襞像	1201
——捻轉症	299
——肉腫, 原發性	840
——石, ト胃潰瘍	635
——食物分布	7
——腫瘍, 良性——	636

胃部不快症狀(膨滿感), 胃腸吻合術後ノ.....849, 894

胃腸

——吻合術	849
——内異物, 誤嚥セル——	298

胃癌

——ト Schnitzler 氏轉移	263
——尿所見	889

胃潰瘍

——ト胃石	635
——, 穿孔性	170
——, 穿孔性腹膜炎	456

異物

——胃腸内	298
腎臓——	303
移動性盲腸腹膜外固定術	895

Lイレウス¹

——毒素トLヘパリン ⁷	894
絞扼性——	431
乳兒ノ——	273
Lイムペヂン ⁷ ト腫瘍	355
陰囊水腫Lクラウドン ⁷ 注入法	303
一側性多發性腦神經炎	449
所謂足下垂	293

J

軸捻轉症, S 狀結腸——	167
---------------	-----

腎

膿——	898
——囊腫, 孤立性漿液性——	897
——出血症, 特發性——	887

腎盂

——筋肉變化	16, 32, 175, 307
——乳嘴腫	302

腎臟

——異物	303
——英膜	473, 691, 1190

上口唇嚙ヘノ角靜脈結紮.....890

十二指腸閉鎖

腸間膜動脈性—— 465, 467
一過性—— 646

K

Kahler 氏病 79, 257, 290
Kausalgie 154
蛔蟲迷入, 蟲様突起へノ 638
潰瘍, 胃—— 170, 635
寒性膿瘍原發竈, レ線ニヨル追及 157
關節屈位強直, 先天性多發性 462
肝臓
——自家融解ト死 372
——機能, 骨疾患ノ 891
——膿瘍, 排膿法 302

頸部

——交感神經節, 耳殻移植皮膚へノ影響 702
——深在性皮膚様囊腫 644

經皮免疫法

——, 免疫元軟膏塗擦時間 730
——, Lワクチン¹, Lコクチゲン¹ノ比較 736
——, 免疫元ノ本態 742
——, 免疫元ト菌體 749
——, 全身免疫ト局部皮膚免疫程度 755
——, Lワクチン¹塗布法ニヨル可能性 762
——, 注射免疫トノ差 767

經皮全身免疫

——, ト葡萄糖加免疫元 1074, 1085, 1090, 1097
——, 種々ナルLワクチン¹, Lコクチゲン¹軟膏ニヨル 563, 580, 587, 596, 603, 610
——, 注射全身免疫トノ差 762
——, 發生(成立)機轉 563, 580, 587, 596, 603, 610, 767

病變ト筋Lクロナキシー¹ 888

結腸癌 636

結核

胸圍——ノ治療方針 260
——感染ニ對スル肺直接免疫 1005, 1018, 1020, 1022, 1026, 1028
——性腹膜炎トシユニツレル癌轉移 300

血管

——運動營養神經性疾患 642
——内被細胞腫, 手術 238

血液保存 287

血中Lクロール¹量ト急性肝臓壞疽 896

肩峰鎖骨關節脫臼, 手術新法 900

氣管枝

——瘻 455

——性腹壁筋炎 926

畸形腫, 後腹膜—— 162

筋

——炎ト流注膿瘍 158

——Lクロナキシー¹ト痙攣 888

——ト腦浮腫 287

——腫, 腸管壁ノ 468

近畿外科學會抄録 287, 887

基礎代謝簡易測定法ト應用 888

氣腫, 腸管袋様—— 300

神戸市大水害時外傷 900

後腹膜腫瘍 470

睾丸

——肉腫ノ轉移 617

——腫瘍ノ轉移 299

高位腸管瘻, ボツタ氏處置 300

交感神經支配遮斷ノ生理 293

Lコクチゲン¹軟膏經皮全身免疫 563, 580, 587, 596

近藤教授就任式 1245

跟骨々端完全融合期 899

Lコレステリン¹性肋膜炎 454

孤立性漿液性腎囊腫 897

抗體產生, 肺ノ 887

骨

——改造帶, 病理成因ト本態 279

——折 900

骨髓像, 種々ナル骨疾患ノ 891

Lクロナキシー¹, 筋ノ 287

胸圍結核治療方針 260

胸腔免疫 1150, 1160, 1164, 1173, 1176, 1180

局所

——賦活療法, 創傷ノ 889

——皮膚免疫ト神經作用 921

京都外科集談會演題 172, 304, 471, 1251

L

ルーリツシュ氏手術 452

リットル氏病 463

——治療方針 893

M

痲痺, 脊髄性—— 257

「メニンギオーム」ト矢狀竇外膿瘍……………	448	孤立性漿液性腎——……………	897
免疫……………		脊髓硬膜外——……………	291
——ト神經作用……………	921,957,961,969,974,978,986	特發性總輸膽管——……………	897
肺ノ直接——……………	1005,1018,1020,1022,1026,1028	膿腎……………	898
——, 偏側脊髓神經切斷皮下皮膚ノ……………	957	膿胸……………	
經皮——ノ意義……………	986	腐敗性——……………	261
——法……………	730,736,742,746,755,762,767	——遺殘死腔……………	455
——全身——……………	536,580,587,596,603,610,961,969,1074,1085,1090,1097	膿瘍……………	
胸腔——……………	1150,1160,1164,1173,1176,1180	寒性——原發竈……………	157
軟膏——法……………	781,786,795,803,828,833	肝——排膿法……………	302
——血輸血……………	889	流注——ト筋炎……………	158
——局所皮膚ノ全身性作用……………	1105,1124,1133,1139	左側腹腔——……………	896
免疫元……………		脊髓硬膜外——……………	881
——ノ特異性, 非特異性……………	1180	矢狀竇外——……………	448
葡萄糖加——……………	1074,1085,1090,1097	小腸間膜……………	897
——軟膏ト沃度加里軟膏……………	986	尿中大腸菌……………	459
盲腸憩室炎……………	895	——ト外科的腹部疾患……………	302
Mycosis fungoides……………	79	尿道破裂, レ線ニヨル診斷……………	163
N……………		乳糜胸ト外傷……………	229, 294
内皮細胞腫, 肋膜ノ……………	634	乳腺レ線像……………	294
内發性胃平滑筋腫……………	884	乳嘴腫, 腎盂ノ——……………	302
中川, 高杉氏癌腫血清診斷……………	1039, 1045	O……………	
軟膏免疫法……………	781,786,795,803,828,833	「オプソニン」……………	
——局所皮膚ノ全身性作用……………	1105,1124,1133,1139	——量ト黃葡「コクテゲン」軟膏……………	563, 580
肉腫……………		——產生, 肺ノ——……………	1005, 1018, 1020, 1022, 1026
胃原發性——……………	840	——, 交感神經切除術局所皮内——……………	978
頸部——ノ轉移……………	259	横斷性脊髓炎ト脊髓腫瘍……………	893
「ノイリノーム」……………		横痃, 淋菌性——……………	275
聽神經——……………	643	P……………	
手掌部——……………	898	ベルテス氏病トラバアル氏手術……………	168
腦……………		「ピロカルピン」破壊物質……………	887
——壓急變, 腦腫瘍手術ノ……………	284	Pneumatosis cystoides intestinorum……………	159
——浮腫ト筋「クロナキシー」……………	287	ボツタ氏處置……………	300
——膜炎, 限局性漿液性——……………	276	プリングル氏病……………	893
——神經炎, 一側性多發性——……………	449	R……………	
——側室内腫瘍……………	292	ラバアル氏手術……………	168
——腫瘍, 手術……………	284	レ線……………	
——, 幼小兒ノ……………	378	——, 外科的疾患ノ診斷……………	870
囊腫……………		——像, 乳腺ノ……………	294
蜘蛛膜——……………	643	——, 尿道破裂ノ……………	163
皮膚様——……………	644	レツクリングハウゼン氏病ノ腦質……………	893
脾臟——……………	302	肋間神經痛……………	634
		肋膜……………	

——炎, L コレステリン I 性	454
——内皮細胞腫	634
綠色腫, 下顎	155, 290
流注膿瘍, ト筋炎	158
淋巴	
——囊腫, 手術後發性	288
——腺炎症性腫脹	646

S

鎖肛	164
Schnitzler 氏轉移	263
精系捻轉症, バシニー L ヘルニア I 手術後ノ	894
脊椎	
—— L カリエス I , 觀血療法	108
——骨折 Böhler 氏法	290
脊髓	
壓迫性	291
——炎, 横斷性	893
——硬膜外膿腫	881
——膿瘍	291
——小兒麻痺	893
——腫瘍摘出	453
纖維筋腫, 膀胱	303
潛侵熱, 膽石手術後ノ	455
神經痛	
肋間	634
神經損傷後——療法	289
心臟内刺入針剔出	295
失調症	876
膝關節	
——強直觀血的授動術	292
——内側 L メニスクス I 損傷	292
矢狀竇外膿瘍	448
小腸	
——重積症, 睾丸腫瘍轉移ニヨル	299, 617
——破裂	266
——閉塞症, 糞石ニヨル	459
——間膜膿瘍	897
——捻轉症, 分娩後	299
消毒藥ノ喰菌作用ヘノ影響	287
消化管象皮病	414
消化性潰瘍(胃粘膜), メツケル氏憩室ニオケル	895
小脳々橋隅角部腫瘍	449
植物性纖維腫	299

食道切開縫合方法	1058
喰菌作用ト消毒藥	287
手術	
——後疾患	295
——的侵襲時ノ L ビタミン I 消耗	129
習慣性腸重積	647
出血性素因ト L ビタミン I C	631
腫瘍	
聽神經	291
第四腦室	152
後腹膜	470
腦側室内	292
良性胃	636
脊髓	453
小脳々橋隅角部	449
側室性	892
——ノ L イムベチン I	355
——細胞, Kahler 氏病ノ	79
足	
——過剰骨ト足痛	899
——根部過剰小骨	292
——痛ト足過剰骨	899
側腦室腫瘍手術治驗例	892
總輸膽管囊腫, 特發性	897
膝臟	
——壊死	170, 269
外傷性急性	896
——壊疽(急性)ト血中 L クロール I 量	896
——皮下單獨破裂	435
——織迷入, メツケル氏憩室ヘノ	895
——症, 急性	267
T	
多發性癌	461
體半側性體溫異常	632
高田反應	288
膽囊炎	161
膽石	
——, 肝臟 L ヂストマ I 核ノ	897
——症尿所見	889
Tarsalia	292
テオドル・ピルロト氏書簡	661, 901, 1227
吐血, 小兒發作性	265
特發性脫肛	

——ノ細胞生活機能検査	625
——手術	452
——後ノ急性壊死	641
特發性腎出血症	887
特發性總輸膽管炎腫	897
トマト汁ノ腸管吸收	888
V	
ワクチンヲ軟脊ト經皮全身免疫	603,610
ビタミン	
——，外科ヘノ應用	628
——C 膽血症性出血性素因ヘノ	631
——C 消耗，測定法	159
——，外科の疾患ト	129

——，手術の侵襲時ト	129
——定量法，血清中	159

Y

腰薦交感神經節切除術	293,452,641
溶血液輸入	288
輸血，免疫血	889
輸尿管	
——筋肉變化	16,32,175,307
——通過障礙	16,32,175,37,1190

Z

全身免疫，經皮——成立機轉	
	563,580,587,596,603,610
象皮病，大陰唇	640

Sachregister (Band XVI, 1939)

〔本索引ハ歐文論文抄録ノミヨリ抄録ス〕

A

- Agglutinin, .. 566—570, 777—780, 1076, 1107—1113
- Anticoli—, 566, 778, 780
- Antiproteus—, 778
- Antistaphylokokken—, 778
- Antityphus—, 777, 1076, 1107, 1113
- homologes —, 572, 1108, 1113
- mobilisierte —menge, 778, 1108, 1109
- provisorische —menge, 777, 778
- spezifisches —, 776, 1076
- Albee's operation*, 108
- Alt-Tuberkulin, 1008—1013
- Anamnestiche Reaktion,
- heterologe —, 1110—1113
- homologe —, 1110—1113
- Antigen (mikrobiotisch), 355
- Antikörper, 563—571,
- 921—926, 1075—1077, 1105—1113
- homologer —, 1110, 1113
- mobilisierte —menge, 926
- provisorische —menge, 926
- spezifischer —, 1155
- unspezifischer —, 1155
- AO, 1008—1013
- Appendixring, 432
- Ascoltin, Ascorbinsäure, 129
- Astrocytoma (cerebellum), 403—408
- Aufflockungsreaktion (Krebsreaktion), 1045

B

- BCG, —Erreger, —Nativfiltrat, —Kokto-
- filtrat, 1009—1013
- Bluttransfusion (u. Hämosiderose der Milz), 1

C

- C-Hypovitaminose (bei chirurgischen Erkrankungen),
- 129—131
- Choledochverschluss, 507, 508
- Chylothorax traumaticus, 229

- Cocainsalbe, 565—570,
- 779, 780, 937, 938, 1107, 1108
- Colibakterienvakzin, 571
- Coliköktigen, 774, 780, 1077
- salbe, 566, 567, 777—780, 1110—1112
- Courvoisiersche Acholie-Theorie*, 507
- Craniopharyngioma, 387

D

- Darmnaht (Totenraum, Infektion, Heilung), .. 46—48
- Desinvagination, 618
- Dünndarminvagination, 617

E

- Elephantiasis gastrointestinalis, 414, 417
- gastrica, ileocoeliaca, rectalis, 417
- Ependymal tumor (Ependymoma), 395—397

F

- Fibrosarkom (Magen), 841

G

- Gastritis indurativa, 417
- Gastrocirrhosis simplex, 417
- Gastroenterostomie (Totenraum, Infektion, Heilung),
- 49
- Gastrojejunostomie, 849
- Glioma (pontine, optic chiasm), 392—393

H

- Hämangioendotheliom (Rückenmark), 238—240
- Haemosiderose (der Milz), 1
- Hibb's technic*, 108
- Hodensarkom (Metastase), 617
- Hoessly's test*, 108
- Hydronephrosenbildung, 474, 475

I

- Ileocoecalcarzinom, 415

- Iliacalanus,414
- Immunisierung,
 — der Lungen,1005
 intrapleurale —,1150—1153
- Immunität,
 aktive —,725, 777, 923—928, 1113
 spezifische —,564
- Immunogen,
 abgekochte —, native —, ..721, 722, 1152
 —salbe, ..563, 564, 572, 721, 722, 726, 780
- Impedin,571, 572, 1012, 1013
 — bei Elephantiasis gastrica416
 — bei Geschwülsten,355
 — bei Magensarkom,841
 — bei Sarkom,355, 618
- Injektionsimmunisierung,723—729,
 774—779, 928—929, 1076
- Inkretionsfunktion (Einfluss auf Krebsreaktion), 1045
- Intracranial tumors (Infancy, Childhood)..380—413
- Ito-Ohsawasche Operation,930—931
- Ito's modification of *Hibb's* operation,108

J

- Jodkalisalbe,931—942

K

- Kahlersche Krankheit,79—81
- Kauschsche Paracholie-Theorie,507
- Koktigen,571,
 572, 722, 775, 939—941, 1007—1013, 1154
- Koktigensalbe,564—569,
 721—726, 775, 780, 924, 925, 927, 931,
 935—942, 1074—1077, 1105—1112
- Koktoimmunogen,728
- Krebsreaktion (*Nakagawa-Takasugi*),...1039, 1045

L

- Leberautolyse (Todesursache),372
- Lehmann-Facijs'sche Methode (Krebsreaktion),
 1039, 1045
- Leriche'sche Operation,929—931
- Leukämie,79

- Linitis plastica,414, 417
- Lumbosacrale sympathische Ganglionektomie,
 921—922, 926—941

M

- Magengabelung,7
- Magenkrebs,414
- Magennaht (Totenraum, Infektion, Heilung), ...46
- Magenpolyp,841
- Magenresektion (postoperative röntgenologische Studien),849
- Magensarkom (primär),840
- Magenstrasse (*Waldeyer*),7
- Malignes Schleimhautrelief (Magen),841
- Medulloblastoma (inferior vermis),398
- Meningioma,390
- Mikrogastrie,417
- Mukosafaltenbildung (Magen),
 anatomische Stabilität der —,1203
 Bedeutung der —,1202
 Gewöhnung der —,1203
- Mycosis fungoides, 79
- Myelom, 79

N

- Nakagawa-Takasugi'sche* Krebsreaktion, ..1039, 1045
- Neurinoma,390
- Nierenkapsel (praktische Bedeutung),473

O

- Oesophagotomie u. Nahtmethode,1058, 1059
- Oleum sinapis aethereum,922, 935—941
- Opsonierende Kraft (der Sera),563
- Opsonin (Blut),563, 564, 565, 723—727,
 774—780, 921—941, 1074—1077, 1105 1108
- Opsonin (Lunge),1005—1009
 Anticoli—,1112
- Antistaphylokokken—, ..778, 922, 1111—1113
- Antistreptokokken—,1111, 1112
- Antituberculöses —,1007, 1008, 1013
- heterologes —,1113
- homologes —,1007—1012,
 1110—1113, 1150—1153

mobilisierte —menge, 778,
 779, 925, 926, 1107
 spezifisches — (Blut), 563,
 723—727, 774, 922, 923, 925—932, 938—
 941, 1007, 1008, 1074—1077, 1108
 spezifisches — (Pleura), 1150—1154
 unspezifisches — (Blut), 774

P

Pankreasruptur (traumatisch), 435
 Peritoneographie, 416, 429
 Pineal tumor, 384
 Proteusbakterien, 778

R

Resektions- u. Anastomosierungslinie (Magenresek-
 tion), 849
 Röntgenrelief (Magenschleimhaut), 1201

S

Salbenimmunisierung, .. 563—572, 721—728, 774—
 780, 921—942, 1075—1077, 1105—1113, 1155
 Sarkom (inferior vermis), 398
 Schleimhautrelief, 1201
 Darstellungsmethode des —, 1201
 — der Grenzfalte, 1202
 — des normalen Magens, 1201
 Silberschmidtsche Kerz, 724
 Sinusbildung (nach Magenresektion), 849
 Sklerostenosis (Magen), 417
 Sondeabsaugung (Magen), 1201
 Spine-Caries, 108
 Spondylitis ankylopoetica, 80
 Spontangangraen, 929
 Staphylococcus pyogenes albus, 1105
 — pyogeues aureus, .. 563, 721, 723, 724, 774, 777,
 779, 921, 922, 1005, 1007, 1013, 1110, 1152

Staphylokokken, 778, 926, 1106, 1153
 —koktigen, 928,
 1074, 1075, 1077, 1106, 1150, 1152, 1153
 —koktigensalbe, 564,
 725—727, 921—929, 1105, 1110—1112
 Strangulationsileus (durch Wurmfortsatz), 431
 Streptokokken (haemolysierend), 46
 —koktigen, 1077
 —koktigensalbe, 1110—1112

T

Traubenzuckerkoktigen, 1074
 —salbe, 1105
 Tropacocainsalbe, 565
 Trophoneurotische Fasern, 928
 — Innervation, 939
 Tuberkelbazillen, 1006—1013
 —koktigen, 1005—1013
 —präparat, 1008
 Typhusbazillen, 777, 778, 1107
 —koktigen, 1076, 1109
 —koktigensalbe, 1076, 1107—1113

U

Unibaryt (Barium-Präparat), 1201

V

Vakzine, 572, 722—728, 1152
 banale —, 724
 native —, 572, 722, 728
 Voll—, 725
 Vater'sche Papille, 507
 Vitamin-C, 129
 —Bedarf, —Déficit, (bei chirurgischen Er-
 krankungen), 129

W

Weisse Galle (Entstehung), 507, 508

Inhaltsverzeichnis

(Ausgegeben 1939)

ORIGINAL

Morioka, T., Haemosiderose der Milz nach Bluttransfusion.....	1
Nishimura, K., Experimentelle Untersuchung über die Verteilung des Magen- inhaltes nach Anlage der Magengabelung.	7
Kishi, G., Muskelveränderung am Nierenbecken und Ureter bei Stauung in den harnableitenden Wegen.	
II. Mitteilung. Über die Muskelveränderung am Nierenbecken beim acuten völligen Verschluss.	16
III. Mitteilung. Muskelveränderungen an oberhalb gelegenen Teilen der vollständig verschlossenen Ureterstellen.	32
Watanabe, M., Experimentelle Untersuchung über den Einfluss der Grösse und Infektion des Totenraums auf die Heilung der Naht an Magen und Darm....	46
Kin, S., Beitrag zur Kenntnis der Kahlerschen Krankheit mit Mycosis fungoides, besonders über die Genese der Geschwulstzellen.	79
Tsuchiya, J., On the Operative Treatment of the Caries of the Spine.	108
Murakami, J., Vitamin-C-Bedarf bei chirurgischen Erkrankungen sowie operativen Eingriffen.	129
Kishi, G., Muskelveränderung am Nierenbecken und Ureter bei Stauung in den harnableitenden Wegen.	
IV. Mitteilung: Muskelveränderungen am Nierenbecken und Ureter beim unvolligen Ureterverschluss.	175
Watanabe, M., Experimentelle Untersuchung über den Einfluss der Grösse und Infektion des Totenraums auf die Heilung der Naht an Magen und Darm.	198
Fujita, K., Bando, T. und Sugishita, J., Ein Fall von Chylothoracus traumaticus.	229
Kin, S., Eine mit Erfolg ausgeführte Operation von intramedullärem Hämangioendotheliom des Rückenmarks.	238
Kishi, G., Muskelveränderung am Nierenbecken und Ureter bei Stauung in den harnableitenden Wegen.	
V. Mitteilung: Muskelveränderungen an dem unterhalb des verhinderten Harnleiters gelegnem Teile.	307
Watanabe, M., Experimentelle Untersuchung über den Einfluss der Grösse und Infektion des Totenraums auf die Heilung der Naht an Magen und Darm.	327

Ishino, T., Das Impedin bei Geschwülsten.	355
Amano, K., Über die Todesursache bei Leberäutolyse.	372
Bailey, P., Bucy, P. C. and Tanaka, K., Concerning the Treatment of Intracranial Tumors in Infancy and Childhood.	378
Fujinami, S. und Fusaoka, R., Elephantiasis gastrointestinalis.	414
Ogai, S. und Ohnishi, S., Ein Fall von Strangulationsileus durch den normalen Wurmfortsatz, dessen Spitze mit dem Mesenterium fibrös verwachsen ist. ...	481
Ogai, S. und Ohnishi, S., Ueber die einfache traumatische Ruptur des Pankreas.	435
Kishi, G., Experimentelle Untersuchungen über die Kapselverhältnisse der Niere und ihre praktische Bedeutung. Mitteilung I. Bei gesunder Niere.	473
Watanabe, M., Experimentelle Untersuchung über den Einfluss der Grösse und Infektion des Totenraums auf die Heilung der Naht an Magen und Darm.	491
Amano, K., Ueber die Entstehung der „weissen Galle“.	507
Hashimoto, N., Über die Bildungsstätte der im Blute nachweisbaren Antikörper bei der Salbenimmunisierung. Versuch I. Über das Verhalten der Opsoninzunahme im Blute zum Grade der Abtragung des vorbehandelten Hautlokals.	563
Versuch II. Über das Verhalten des im Blute erzeugten Opsonins zu der Cocainisierung des vorbehandelten Hautlokals.	565
Versuch III. Über das Verhalten der Agglutininzunahme im Blute zu der Abtragung des vorbehandelten Hautlokals.	566
Versuch IV. Über das Verhalten der Agglutininzunahme im Blute zu der Cocainisierung des vorbehandelten Hautlokals.	569
Versuch V. Über den Unterschied zwischen der nativen und der abgekochten Vakzine von Colibakterien bei der Salbenimmunisierung.	571
Osaka, N., Ein Fall von Dünndarminvagination durch Metastase des Hoden- sarkoms.	617
Kishi, G., Experimentelle Untersuchungen über die Kapselverhältnisse der Niere. Mitteilung II. Bei Hindernissen der harnableitenden Wege nach der Tuschen- injektion.	691
Watanabe, M., Einfluss des Halsganglions des N. Sympathicus auf die Haut- transplantate an Kaninchenohrmuschel.	702
Uyeda, K., Fundamentale Versuche über die Salbenimmunisierung. I. Über die Einschmierungsdauer der Koktigensalbe.	721
II. Vergleich der einfachen Bepinselung des Immunogens mit der Einsch- mierung der Immunogensalbe im immunisatorischen Erfolge.	722

III. Über das Wesen der immunogenen Materialien betreffs der Salbenimmunisierung.....	723
IV. Was haben die in den banalen Vakzinen enthaltenen Mikrobenleiber für immunisatorische Bedeutung?	724
V. Über die Erwerbung der allgemeinen aktiven Immunität durch die Salbenimmunisierung.	725
VI. Kann die Erwerbung der allgemeinen Immunität durch die einfache Bepinselung der Vakzinen auf die äussere Haut erzielt werden?	726
VII. Zum Unterschiede zwischen der (Salben- bzw.) Hautimmunität und der (Injektions- bzw.) Resorptionsimmunität.—Über das Wesen der durch die Salbenmethode erworbenen allgemeinen Serumimmunität.....	727
Kawashima, S., Vergleich der Salbenimmunisierung mit der Injektionsimmunisierung.	
I. Vergleich der beiden Immunisierungsmethoden in der Erzeugung des unspezifischen Opsonins im Blute.	774
II. Feststellung der durch die beiden differenten Methoden noch erreichbaren höchsten Zunahmen des Opsoninindex.	775
III. Vergleich der beiden Immunisierungsmethoden in der Erzeugung des spezifischen Agglutinins im Blute.	776
IV. Vergleich der beiden Immunisierungsmethoden im Grade der aktiv erworbenen Immunität.	777
V. Zur Bildungsstätte des Opsonins bei der Salbenimmunisierung.	779
VI. Die Zellfunktion der Haut bei der Salbenimmunisierung.	779
Osaka, N., Ein Fall von primärem Magensarkom.....	840
Ishino, T., Ueber die Ursache und Verhütung der nach der Magenresektion häufig vorkommenden Vollgefühl usw. im Epigastrium, nebst der Revision verschiedener Gastrojejunostomiearten.....	849
Saeki, Y., Ueber die Einflüsse der Nerven auf die Antikörperauslösung bei der Salbenimmunisierung. — Ueber das Wesen der durch die Salbenmethode herbeizuführenden Immunität.	
I. Mitteilung. Wird die Opsoninauslösung in der salbenimmunisierten Haut überhaupt von Nerven beeinflusst?	921
II. Mitteilung. Ueber die Erzeugung des spezifischen Opsonins in der durch Abtrennung der Spinalnerven (D ₉ –L ₃) total gelähmten Haut bei der Salbenimmunisierung.	923
III. Mitteilung. Ueber die Erwerbung allgemeiner aktiver Immunität bei der Salbenimmunisierung der gelähmten Haut.....	925
IV. Mitteilung. Ueber die Gewinnung allgemeiner aktiver Immunität durch die Salbenimmunisierung bei der lumbosacralen sympathischen Ganglio-	

nektomie.	926
V. Mitteilung. Wird die Erwerbung der allgemeinen aktiven Immunität bei der Injektionsimmunisierung von der unilateralen Durchtrennung der Spinalnerven D ₉ -L ₃ irgend wie beeinflusst?	928
VI. Mitteilung. Ueber den Erfolg der lumbosacralen Ganglionektomie zur Erhöhung der Antikörperbildung in der salbenimmunisierten Haut, sowie den Vergleich dieser Operation mit der Lerichesten in der Dauer der therapeutischen Erfolge gegen Spontangangrän.	929
VII. Mitteilung. Vergleich der Jodkalisalbe mit der Koktigensalbe betreffend die perkutane allgemeine Resorption sowie die lokale Aufspeicherung der immunogenen Substanzen.	931
Nishiwo, H. , Erforschung über die direkte Immunisierung der Lungen gegen die tuberkulöse Infektion.	
I. Die Auslösung des gegen Staphylococcus pyogenes aureus gerichteten Oponins in der Lungen durch Tuberkelbazillen-Koktigen.	1005
II. Die Erzeugung des gegen Tuberkelbazillen gerichteten Oponins in der Lunge durch Tuberkelbazillen-Koktigen.	1006
III. Ueber die Menge des TB-Koktigen für die Auslösung der maximalen antituberkulösen Oponinmenge in der Lunge.	1007
IV. Vergleich von verschiedenen immunogenen Präparaten betreffend Tuberkelbazillen für die Auslösung der grössten Oponinmenge in der Lunge.	1008
V. Vergleich von BCG mit dem TB-Koktigen in ihrem Erfolge, das homologe Oponin in der Lunge zu erzeugen.	1009
VI. Vergleich von TB-Koktigen und BCG-Nativfiltrat in der präventiven Wirkung gegen die tuberkulöse Infektion der Lungen.	1010
Nobuoka, N. , Über Nakagawa-Takasugi'sche Diagnostik der Krebsreaktion.	
I. Mitteilung: Klinische Beobachtung auf chirurgischem Gebiet.	1039
II. Mitteilung: Einfluss der Abnormität der Inkretionsfunktion auf die Krebsreaktion.	1045
Yamane, S. , Die experimentelle Untersuchung über die Methode der Oesophagotomie und deren Naht.	1058
Hiroshige, T. , Ueber die immunisatorische Wirkung der Koktigensalben mit Traubenzuckerzusatz.	
Versuch I. Wird die mittels der Koktigensalbe zu erwerbende Immunität durch Traubenzuckerzusatz erhöht?.....	1074
Versuch II. Ueber den optimalen Traubenzuckerzusatz zur Koktigensalbe für die grösste Antikörperauslösung im Blute.	1075
Versuch III. Vergleich der Salbenimmunisierung mit der Injektionsimmuni-	

sierung bei der Erzeugung des spezifischen Agglutinins im Blute, unter besonderer Berücksichtigung des Traubenzuckerzusatzes zu den immuno- genen Substanzen.	1076
Versuch IV. Ueber die Spezifität der mittels der Salbenimmunisierung im Blute ausgelösten Opsonine.	1077
Hiroshige, T., Ueber die Rolle der salbenimmunisierten Haut für die Anti- körperauslösung im Blute.	
I. Mitteilung. Ueber die Messung der von salbenimmunisierter Hautstelle aus in die allgemeine Blutbahn gelieferten Opsoninmenge.	1105
II. Mitteilung. Ueber die Messung der von der salbenimmunisierten Hautstelle aus in die allgemeine Blutbahn gelieferten Agglutininmenge....	1107
III. Mitteilung. Zum qualitativen Nachweis der Agglutininabsonderung von der vor 4 Monaten salbenimmunisierten Haut.	1109
IV. Mitteilung. Ueber die Fähigkeit der Tiere mit der durch eine beliebige Koktigensalbe immunisierten Haut, auf die Invasion verschiedener Erreger hin homologe Antikörper ins Blut zu mobilisieren.—Zum Unterschiede zwischen der homologen und der heterologen anamnestischen Reaktion.	1110
Himej, K., Ueber die intrapleurale Immunisierung.	
I. Ueber die optimale Koktigendosis für die Auslösung der maximalen Opsoninmenge in der Pleura costalis.	1150
II. Ueber die optimale Zeitdauer nach Einspritzung des Koktigens in die Pleurahöhle für die Erwerbung der grössten Opsoninmenge in der betreffenden Pleura costalis.	1150
III. Vergleich der auf verschiedene Weise hergestellten Immunogene aus ein und demselben Stamm Erreger in ihrem intrapleuralen immunisatorischen Maximalerfolge.	1151
IV. Der Unterschied zwischen der Pleura costalis und der Pleura visceralis bei der intrapleuralen Immunisierung.	1152
V. Kann der Opsoninindex der Pleura costalis durch die intrapulmonale Einverleibung des Staphylokokkenkoktigens gesteigert werden?.....	1153
VI. Ueber die Artspezifität der in der Pleura costalis erzeugten Opsonine....	1154
Kishi, G., Experimentelle Untersuchungen über die Kapselverhältnisse der Niere. Mitteilung III. Bei Hindernissen der Harnableitendenwege vor der Tuschen- injektion.	1190
Isino, T., Das Röntgenrelief der Magenschleimhaut. Darstellungsmethode und Bedeutung des Schleimhautreliefs des normalen Magens.	1201

腦下垂体後葉製劑 外科用 ピツグテシン

本劑は新鮮なる腦下垂体後葉より有效全成分を抽出せるものにして産科用ピツグラシンに比し約二倍強力作用あり 1cc中確實に20國際單位を含有する 即ち手術後の腸鬱血の場合腸蠕動を高め放屁排便に利し止血の効をも併有する また尿閉塞の場合には膀胱のトーマスを調節し自然的排尿に至らしめる

【適應症】 腹腔内並びに骨盤内臓器手術後に續發する尿閉 腸管麻痺及び出血 夜尿症 尿崩症等

注射液 1.0cc 3a(4.00) 10a(12.00)

株式會社 藤澤友吉商店

大阪市東區道修町
東京市日本橋區本町
京城府西小門町
奉天市大和區加茂町



PX1142

痔疾・潰瘍・一般創傷
特效治療劑

ヘルミチン

卵黃油製劑

古來より火傷創傷に偉効を奏した卵黃油の代表的製劑として痔核・痔瘻を始め一般潰瘍性疾患に對し消炎鎮痛乾燥の効頗る迅速確實である

【軟膏】 一般潰瘍 外科創傷 火傷 凍傷 汗疱 頑癬其他肛門外部疾患

10g(0.45) 30g(0.90) 100g(2.00) 300g(5.00)

【坐藥】 内外痔核 痔出血 肛門裂 痔瘻 分娩後の脱肛 會陰裂傷等

5個(0.45) 10個(1.75) 30個(2.10) 100個(5.00)

ヒスタミン中毒症・イレウス症
新治療劑

ニコチラミン

解毒・強心・呼吸興奮劑

本劑は九州帝國大學醫學部赤岩外科教室に於て秋山茂春博士に依り所謂ヒスタミン中毒の本態を研索の結果蓋床上の治療手段として結核性藥物に依つてその能力を壓し特に生活に直接影響する臓器に及ぼす有害作用を除去し「ヒスタミン」の自然的解毒を有利に導かしむるやう創案せられたるものなり

本劑はパラオキシフェニールエチルアミンの塩酸塩にピリチン誘導体を配合せるものなれば二等兩成分の協同作用に依りヒスタミン或は其他の末梢性血圧降下性毒物の中毒性疾患治療手段として先づ末梢性拮抗作用を有するパラオキシフェニールエチルアミンに依つて末梢性血圧上昇を起さしめてヒスタミン其他の物質による心臓の二次的障導を防止し他方氏の實驗的根據による肺臓の酸化解毒を旺盛ならしむるためピリチン誘導体の呼吸興奮作用を利用するやう創案されたるものにして治療上絶大なる効果を期待し得べし

1cc 5a(1.00) 10a(1.90) 50a(8.50)
2cc 5a(1.80) 10a(3.40) 50a(15.50)



株式會社 藤澤友吉商店
大阪市東區道修町・東京市日本橋區本町
京城府西小門町・奉天市加茂町15

NIC×BRO 142

純國產
直腸注入基礎麻醉新藥

プロタチン

本劑は「トリブロームエタノール」の直腸注入基礎麻醉藥にして從來の全身局所麻醉と異り患者の精神的打撃を一掃し且つ副作用殆どなく覺醒後の爽快感ある等幾多の特長を具有す

(適應症)

手術時其他諸種の場合に於ける
麻醉 精神病の興奮 無痛分娩
の目的 子癇 破傷風等

結晶 25g(6.50)
液狀 7.0cc(2.20) 50.0cc(13.00)
液狀プロタチン各包裝には適否檢定
用コンゴロート1000倍液を添附す

投 稿 規 定

- 本誌は毎年1月、3月、5月、7月、9月及び11月の1日に發行す。
- 原稿は歐文、和文、何れにてもよし。和文原著には歐文表題歐文抄録及び内容抄録(和文)を添附せられたく歐文原著には和文表題及び必ず和文抄録を添附せられたし(臨床原著も之に準ず)。
- 原稿の用語中、固有名詞はすべて固有の文字を、又數字はすべて羅馬數字を使用せられたく、又「センチメートル」は厘を、「グラム」は瓦を、立方「センチメートル」は耗を使用せられたし。
- 原稿中の挿畫、曲線等は必ず原稿紙以外に更に別紙として墨汁又は製圖用「インク」にて書かれたし。歐文は「タイプライター」を使用せられたし。
- 原稿掲載して12頁迄は無代なるも、それ以上は1頁につき、實費に準じて金5圓也以内を申受く。又附圖別表等の印刷はその實費を申受く。12頁以上の原稿にても、これを1回12頁宛に分割して掲載する事を承認せらるゝ場合は無代とす。
- 原稿の發表は到着順によるも、急を要せらるゝ向は、特別掲載料として1頁につき金5圓也以内の實費を申受け直ちに發表致すべし。
- 執筆者に於て、別刷御希望の方は、御寄稿と同時に特に附言せられたく、30部迄は無代贈呈致すべきもそれ以上は實費を申受く。
- 原稿は京都帝國大學醫學部外科學教室、外科寶函編輯室宛、御送附下されたし。

日本外科寶函	定價	一 部		金壹圓貳拾錢		郵 稅 不 要	
		一ヶ年分		金六圓		郵 稅 不 要	
	會員外ニシテ本誌講讀希望ノ方ハ直接本會又ハ賣捌所宛ニ申込マルベシ						
	廣告料	普 通 面	一	頁	金 拾 參 圓		
特 別 面		一	頁	金 貳 拾 圓			
表 紙		一	頁	金 貳 拾 圓			
綴込廣告料		一	枚	金 拾 五 圓			

廣告取扱 大阪市東區京橋三 福田商店廣告部

昭和十四年十月廿五日印刷
昭和十四年十一月一日發行

京都市左京區淨土寺眞如町四

編輯兼發行者 西 村 政 太 郎

京都市中京區柳馬場通三條南入

印 刷 者 福 井 松 之 助

京都市中京區柳馬場通三條南入

印 刷 所 株 式 會 社 似 玉 堂

京都帝國大學醫學部外科學教室

發 行 所 日 本 外 科 寶 函 編 輯 室

(猪子・伊藤兩教授記念會)

振替口座京都3691番

東京市本郷區春木町三丁目

賣 捌 所 南 江 堂 書 店

電話小石川三五一〇・振替東京一四九

京都市中京區寺町通御池南

同 南 江 堂 京 都 支 店

電話本局二〇三〇・振替大阪一一五〇五

京都市丸太町通河原町東入

同 國 井 書 店

電話上二九九七・振替大阪一七二七七